

11月4日 3年生 算数「1ケタをかけるかけ算のひっ算」

『学びを単なる作業にしないために』

子どもたちの主体的な学びの際、「教える」と「任せる」のバランスが大切だと言います。
今回の発信では、3年生の授業から2つステキな手立てを取り上げて考えてみたいと思います。

◆課題設定・情報収集(学びの構えをつくる)

いきなり問題文を読んで、自分で解決していける児童もありますが、全員がそうではありません。教師が主導して課題のおもしろさ、不思議さ、自分とのつながりに気づく導入ができれば、子どもの学びの火も灯り続けるかもしれません。

また、学びの型、解決の仕方の基本をおさえることで、これまで自分だけではできなかったことにも、チャレンジしてみよう、できるかもしれないと思える児童も出てくるかもしれません。

3年生では、授業冒頭で次の活動を全体で進めました。

【教える】場面です。

- ・問題文の音読
- ・イメージ化(先生のお話)
- ・ノート指導(教科書ページ、単元名を書く)
- ・めあての確認
- ・自分の考えを書く
- ・今日の問題の見通し(○番から○番まで)

子どもたちの主体的な活動時間を確保するためにも、ここまです10分以内で進めました。

教えすぎない、でも大事なところはおさえる。

最後の場面でも、子どもたちから本授業に必要な学びが出なかったのも、確認がありました。

◆対話→多様な考えから学ぶ(比べる)

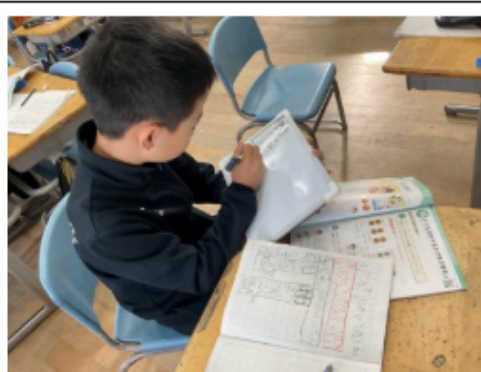
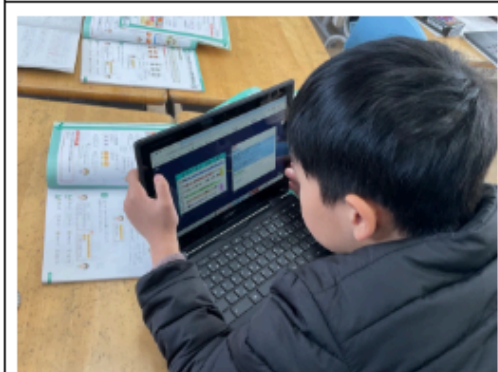
私がこれまでしていた授業と最も異なっているのは、この点です。

【子どものタイミングで、表現、対話】の仕掛けがある。

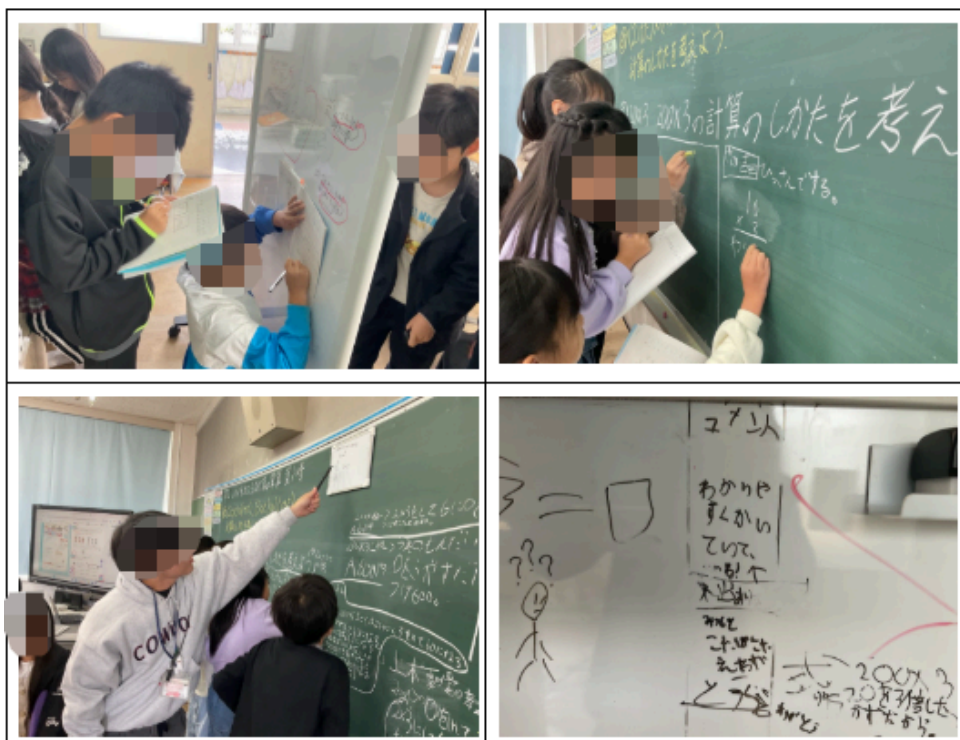
3年生の授業のおもしろさは、子どもが自分のタイミングで板書したり、発表したり、説明したりしている点です。

【任せる】場面です。

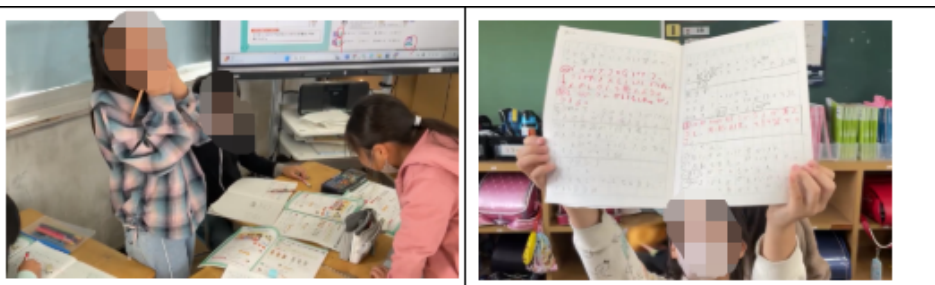
- ・黒板やホワイトボードに自分の考えを表現
- ・ノートに書いたことを友だちに説明する
- ・自分の考えを写真でとって、ロイロノートでみんなに見せる
- ・クラスルームにあげる
- ・分かりませんという
- ・友だちの考えと自分の考えを比べる
- ・友だちの考えにコメントをつける



さらに、「自分の考えと同じ人、似ている人、ちがう人を探してくらべてみよう！」の指示で考えの比較がうながされました。



(考えを比べる中で)「ひっさんのやり方がわからへん・・・。」というある子のつぶやきを拾って、「おお、いいなあ、自分でそのちがいを気づいてるなあ！」と先生が価値づけをすると、その子は「みんな、ひっさんのやり方が分からへんから、わかる人いますか？」と自ら分からないことを聞く姿が生まれました。つづいて、「ぼくもひっさんのやり方、わからへん！」の声も出てきました。分からないことを分からないと言えるクラスは、ステキですよ！！



教えあいの場面。女の子が分からなかった男の子に自分の考えを伝えていました。男の子は「そう！！それ！！」と女の子の考えに大きく賛同していました。そして、左の女の子のこの表情！とってもうれしそうですね！？こんな瞬間が生まれる授業、サイコーですよ！！

3年生の授業の雰囲気、ぜひ実際に見に行ってくださいのが一番いいのですが、お時間がとれない方もいるかと思い、動画でも撮影しています。(下記の教員の内部フォルダに入れています)

Q:\【教員用データ】\2025\学年(1～8年)\3年

ほんの一場面ですが、子どもたちの生き生きと学ぶ姿が少しでも伝わればと思います。

